

お年寄りにやさしいまちむらをつくろう。

1. まえがき

長寿社会をむかえて、これからの地域社会をお年寄りにやさしいまちに変えていくための方策についての提案です。今でもそうですが、大半の家庭が夫婦 2 人になってきています。じい・ばあの核家族化になってきているような気がします。後、10 年～20 年もすれば、もっと顕著になってくるのでしょうか、今のままでは自宅でそして地域で暮らしていけるのだろうかと思うことがあります。

高齢になっても心豊かに暮らすための方策について考えてみました。

2. 今の高齢者たちについての考察

今の高齢者たちは、まだまだ元気がいい方だと感じます。地域でも 70 歳以上の方々が元気に活動しています。コミセン活動にボランティア、グランドゴルフに老人会と忙しい毎日を過ごしている人が多いようです。

ところが、70 歳より若い方々はどうでしょうか？いわゆる団塊の世代以降の壮年の方々ですが、われわれの街ではまだまだ地域活動への参加者が少ないようです。

「ボランティアに参加しないですか？」と簡単な花壇の手入りに誘うと、「腰が痛い、膝が悪いの」あまり人と交わりたくないような、めんどくさそうにしている人が大半です。これで、大丈夫なのか？自治会やら言うとかから出て来ない。関わりたくないと言う人がなんと多いことかと思っています。これでいいのだろうか？今まで家族をささえて頑張って仕事してきたんだから、ゆっくりさせなければかわいそう！そうでしょうか？いつまでゆっくりしているのでしょうか？そのうち本当に動けなくなる時がくるのではと思います。

3. 団塊世代の皆様の地域デビューの応援

まずは、この壮年の方々に地域社会に参加してもらうことが、なによりも大切なことだと考えています。そのためには、私たち地域もなんらかの方策をたてる必要を感じていますが、同時に行政でも何か方策を考えていただきたい。資源ごみの立ち番、校区一斉清掃、ウォーキング大会や簡単な体操教室、なんでもいいのですが団塊世代が参加したくなるような企画を提案してほしいものです。

4. そこで提案です。

(1) 地域コミセンの役割

今後、コミセンの役割が大きくなっていくと思いますが、まず各コミセンに行政と協働でお年寄りにやさしい対策を実施する人材が 1 人くらいいればと思います。予算がないなら、ほぼボランティアでいいと思います。

また、コミセンを年中無休（盆、正月を除く）で運営できないものかと考えています。

そして、セルフでお茶やコーヒーなどを飲みながらお話しや休息が出来るような環境はできないでしょうか。いつでも、コミセンに行けば音楽が流れて誰かとお話し出来てゆっくり出来る空間があるといいと思っています。

(2) 交通手段

高齢者の交通手段ですが、徒歩、自転車、車、車いす、介護タクシーなどなどあると思いますが、いずれにしてもなんらかの対策が必要であると考えています。

①道路については、高齢者が歩きやすく安全な道に出来ないだろうか。手摺り替わりの防護策はないだろうか。また、ちょっと休めるベンチや雨避け（雨宿り場所）などがあるといいのではないだろうか。

②特別に簡易な介護タクシーはないだろうか？車はコミセンにあるパトロール車で、運転手は、シルバーではどうだろうか？（タクシーやバス運転などの経験者など）それによって、町内（校区内）循環バスみたいに出来ないだろうか？

(3) 道路の安全対策

校区内の生活道路についてですが、周囲に小学校、中学校、高校、コミセン、幼稚園などが集まっており、その中を通勤車両などが通学路をスピード出して走行しており、歩行者や自転車が危険にさらされています。特に低学年の子供達は、危なくて交通巡視員のみなさんや保護者が通学時には見守りをしています。

町内でこのような学校などが集まっている周囲を一定の範囲を決めて（幹線道路以外）歩行者優先道路の指定が出来ないでしょうか。道路にマーキングをして最高速度を30km程度に設定したり、横断歩道部をインターロッキング舗装にしたりして、歩行者の優先度を高めていくことで、高齢者も通行し易くなるように思えるのですが。

(4) 食事と医療

生活する上で大変なことに食事と医療があると思いますが、食事は配達方式などコンビニさんなどで知恵をしばってもらいたいし、医療はかかりつけ医を決めておき常に病院に行かなくてもインターネットで状況が分かるとか電話で診断してもらえるなど何か対策が必要だと思います。

そして、最後はせめてデイケアくらいのお世話になっても自宅で生活できるようであればいいと希望しています。